

# 経済マンスリー

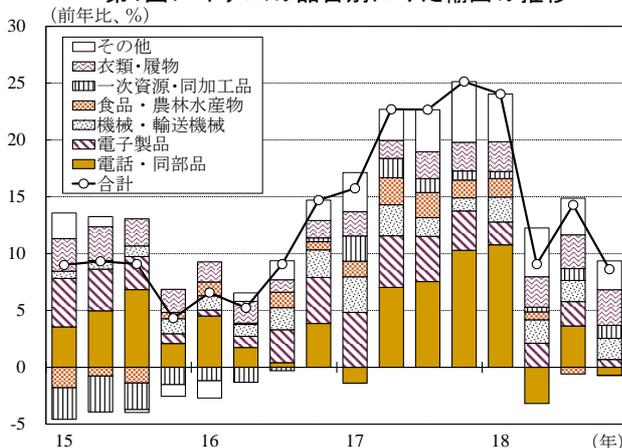
## [アジア]

### 輸出と投資の拡大を支えに安定成長が続くベトナム経済

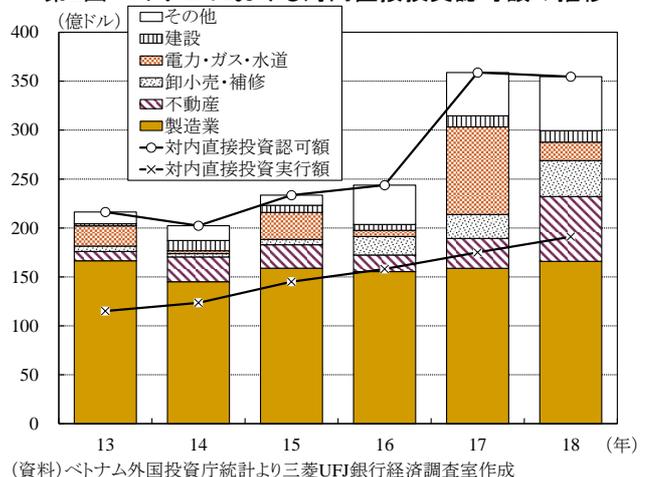
グローバルな製造業の生産活動の軟化を映じ、アジアでも輸出を中心に景気の減速傾向がやや強まっているが、ベトナム経済は安定した成長を続けている。2018 年 10-12 月期の実質 GDP 成長率は前年比+7.3%（7-9 月期：同+6.8%）へと加速し、2018 年通年でも同+7.1%と政府目標（同+6.7%）を上回り、2007 年以来の高い伸びとなった。通年の成長率を主要産業別にみると、建設業が同+9.2%へ加速したほか、サービス業も同+7.0%と堅調を維持、更に輸出を支える製造業は同+13.0%を記録した。輸出を品目別にみると、電話・同部品は前年の高水準の反動もあり拡大ペースが鈍っているものの、衣類・履物、機械等は堅調を保っている（第 1 図）。堅調な輸出が続く背景には、相対的に安価な労働コストと共に、ASEAN の中央に位置し中国華南地域とも接している地理的優位性の活用などを狙った対内直接投資（FDI）の拡大が指摘でき、実際 2018 年の FDI 認可額でも主力の製造業などでは概ね増加基調を維持した（第 2 図、なお全体は 355 億ドル、前年比▲1.2%と、前年に大型案件が集中した電力で反動が現われたため小幅減少）。

先行きについても、米中貿易摩擦長期化を背景とした中国からの生産・投資のシフト先として優位に立つとみられることもあり、安定した経済成長が続くことが見込まれる。包括的環太平洋連携協定（2019 年 1 月 14 日発効）や EU との FTA（2019 年秋に発効予定）など広域経済連携への参加に伴う貿易や投資の拡大も中長期的に成長へのプラス効果が見込まれる。但し、これまでの段階的な関税撤廃や外資規制緩和等にも関わらず、世界銀行のビジネス環境ランキング（2019 年）は 190 カ国中 69 位と前年の 68 位から順位を下げたほか、米ヘリテージ財団が公表している経済自由度指数（2018 年）は 186 カ国中 141 位と ASEAN 加盟国中最下位に止まっている。輸入業者に対する事前手続きなど非関税措置の削減や国営企業改革によるビジネスの透明性向上等が課題として指摘されており、こうした面での改革推進も、民間投資の拡大による産業基盤の一層の強化には不可欠であろう。

第1図：ベトナムの品目別にみた輸出の推移



第2図：ベトナムにおける対内直接投資認可額の推移



照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 高瀬 将平 shiyouhei\_takase@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。